

ピンクリボンNEWS

2024年度
冬号
Vol.13 No.4

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

発行所 J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

J.POSH
日本乳がんピンクリボン運動

TOPICS

患者・市民と医療者が 創る未来の乳がん医療

～ Patient and Public Involvement ～



一般社団法人 BC TUBE
認定NPO法人 乳房健康研究会
がん研究会 有明病院 乳腺外科

やました なみ
山下 奈真

1. はじめに

今では、2人に1人ががんにかかり、9人に1人が乳がんにかかる時代となりました。自分も含め、決して他人事ではありません。がんを皆で知り、やさしく支え合い、共に生きる社会を目指すことが必要となってきています。

2. 患者・市民参画(Patient and Public Involvement ; PPI)とは

PPIは2000年代から英国で最初に採り入れられた考え方で、「患者・市民のために、または患者・市民について研究が行われることなく、患者・市民と共に、または患者・市民によって研究が行われること」という定義があります*1。加えて最近では、研究分野(医学研究や臨床試験など)に限らず医療政策の全般において、その意思

決定の場に患者・市民の関与を求めるといように考え方が広がってきました。そしてがん医療の現場にもこのような考え方が広まりつつあるのです。

3. 日本におけるPPI

日本ではPPIの歴史はまだ浅く、2019年に「患者・市民参画コンソーシアム(Patient and Public Involvement Consortium in Japan)」が設立されました(<https://ppijapan.org>)。同コンソーシアムは、「医療・医薬品開発に不可欠なステークホルダーである患者団体、患者支援団体、一般市民及び産官学の相互理解と協働を推進し、関係者のニーズを掘り起こしながら、丁寧なコミュニケーションのもとで活動方針・活動計画を策定し、真の「産患官学」連携を実現する母体となることを目指す」としています。日本医療研究開発機構(AMED)ではPPIガイドブックが作成されており、PPIがどのようなものか詳しく解説されております*2。



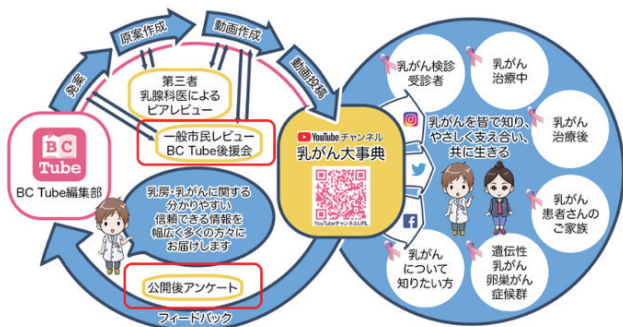
4. 身近にあるPPI

なかなか医療政策、研究分野での参画というイメージが湧きにくいかもしれません。J.POSH(<https://www.j-posh.com>)では「乳がんで悲しむ人を1人でも少なく」をモットーに20年を超える長い間、日本のピンクリボン活動をリードされてきました。「行

政の手の届かぬところを補う」という観点で乳がんで死亡または闘病中の保護者をもつ高校生に対して「奨学金まなび」（無返済）やシッターサポートプログラム、家族で湯ったりキャンペーン、ピンクリボン啓発ティッシュ配りキャンペーン、ピンクリボン検定など多岐にわたる啓発活動をされています。これら活動は患者・市民・企業等からのサポートにより展開されており、患者・市民参画の一形態と言えるでしょう。



私が所属する一般社団法人BC TUBE (<https://bctube.org>)では、「乳がんを皆で知り、やさしく支え合い、共に生きる社会」を目指し、YouTubeでの乳がんに関する医療情報発信を行っております。BC TUBEでは作成した動画をリリースする前に、100人を超える患者・市民からなる「BC TUBE 後援会」の皆様へ試聴いただき、わかりやすさという点についてアドバイスをいただいた上で最終投稿しております。後援会の皆様の参画なくしてBC TUBEの動画は完成できません。



さらにがん教育の分野では認定NPO法人乳房健康研究会 (<https://breastcare.jp>) のピンクリボンアドバイザー認定制度

というものがあります。患者・市民が乳がんについて学び、認定試験を受けてアドバイザーになります。アドバイザーは乳がんを正しく理解し、一人ひとりに寄り添う優しい社会に向けて、家族や知人、職場、地域の人々へ乳がん啓発活動を行います。また、サバイバーの方はがん教育講師としてトレーニングを受けた後に全国の中学校・高校に赴き、それぞれの経験を通じて生徒のがん教育に携わります。がん教育の現場は学校だけに限りません。患者を取り巻く社会全体が教育の現場となります。がん教育には患者・市民の参画が不可欠といえます。

5.さいごに

PPIを通じて新しい価値を見出し、社会に働きかけるチャンスは色々なところにあります。皆さんも未来の乳がん医療、一緒に創りませんか？

BC TUBE 後援会：
info@bctube.org

ピンクリボンアドバイザー：
<https://breastcare.jp/pinkribbon-a-exam/>

J.POSH 各種活動：
<https://www.j-posh.com/activity/>

- *1 <https://www.learningforinvolvement.org.uk>
- *2 <https://www.amed.go.jp/ppi/guidebook.html>

プロフィール：山下 奈真(やました なみ)

2002年東北大学医学部卒業。2009年より九州大学大学院消化器・総合外科 乳腺グループ所属。2013年に医学博士取得。2019年よりダナ・ファーバー癌研究所に研究留学。留学中に会った乳腺外科医とともに2020年に一般社団法人BC TUBE (理事)活動開始。2023年よりがん研究会有明病院乳腺外科にて勤務。日本乳癌学会評議員。認定NPO法人乳房健康研究会理事。

オフィシャルサポーターのご紹介

SBI損害保険株式会社

ピンクリボン活動に参画

SBI損害保険株式会社(東京都港区、小野尚社長)は、金融総合グループのSBIホールディングス(株)の子会社として、2006年6月に設立。自動車保険、火災保険などの各種損害保険の他、がん保険「自由診療タイプ」、医療費用保険などを取り扱っていらっしゃいます。「治療費補償に特化したがん保険、“治療をあきらめない”をコンセプトに開発したがん保険を販売する保険会社として、乳がん啓発に取り組むJ.POSHさんの活動に協賛しよう」(衞寝大輔取締役執行役員コーポレート本部長兼広報・サステナビリティ推進室長)と、2024年3月にJ.POSHオフィシャルサポーターに登録されました。

J.POSHの活動に賛同しサポーターに

「がん保険を販売する保険会社として、また、社員の約6割が女性社員であることなどを踏まえ、乳がん啓発のピンクリボン運動に取り組むことにしました。色々な啓発団体を調べた結果、乳がんに対する貴団体の活動に共感。J.POSHのサポーターとして啓発活動を展開させて頂くことにしました」(安齋淳子ソリューション営業部アライアンス推進課長兼団体福利厚生推進課長)と。

登録と同時に、社の内外で様々な活動を展開されています。

まずは、ピンクリボン運動に協賛開始に関するプレスリリースと社内メールにてJ.POSHのオフィシャルサポーター登録された事を伝えられました。



大分県・J.POSHとコラボレーションしたクリアファイル(写真左)とJ.POSH啓発リーフレット(写真右)

社外向けの啓発活動

社外向け啓発活動としては、10月19日、20日に大分県のサーキット「オートポリス」で開催されたSUPERGT第7戦において、乳がん検診の受診率向上を目指してクイズラリーを実施する大分県に協力し、クイズラリー参加者の賞品として同社、大分県、J.POSHのコラボレーションクリアファイルにJ.POSH発行の啓発リーフレット入れ、500人に提供されました。また、ピンクリボン運動協賛について自動車保険既存契約者(約95万人)や保険加入を検討中の方々に配信するメルマガの中でJ.POSHの取り組むプログラムなど、乳がん関連の発信も行っておられます。さらに今後、ノベルティを作成し、取引先や契約者向けに配布することなども検討中との事です。

社員向けの啓発活動

社員向け啓発活動としては、女性社員ばかりでなく配偶者、ご家族にも共有してもらえるようにとの想いを込めて、乳がん検診受診を勧める社内メールを配信。ピンクリボン月間に合わせて社内に啓発ポスターの掲示や啓発リーフレットを配置。さらに社内でJ.POSHの啓発グッズを紹介されるなど、積極的に、ピンクリボン運動に取り組んで頂いています。

『ピンクリボンNEWS』発行

専門医の寄稿やサポーター紹介記事で情報提供

年4回(季刊)の発行を重ね、乳がん啓発・ピンクリボン運動に関わる情報を提供してまいりました『ピンクリボンNEWS』が、今号で第50号を迎えました。2012年秋に第1号を発刊し今号で第50号。発行母体である認定NPO法人J.POSHは「すべての女性、患者のみなさん、患者の家族のみなさんが涙を流すことのない社会・健康づくり」を目標に活動しています。この活動を支えて下さっているのが個人サポーター、オフィシャルサポーター(営利を目的とした企業法人)・オフィシャルパートナー(営利を目的としない患者会、協会、組合など)の皆様です。ピンクリボンNEWSは、J.POSHからのお知らせ、乳腺外科医・医療関係者などによる寄稿、オフィシャルサポーター・パートナーさまの紹介記事、個人サポーター、患者会、温泉パートナーなどなど多くのお知らせの活動を紹介してまいりました。

寄稿記事は1面に掲載。乳がんに関わる専門分野について時には掘り下げて、時には素人にも分かり易く平易にご執筆して頂いています。最近では「正しい乳がんの知識を広め、社会全体で乳がんについての認識を」という狙いでYouTubeチャンネルを立ち上げ、SNS時代のピンクリボン運動として

注目を集めている「一般社団法人BC Tube」=伏見淳代表理事の寄稿(22年夏号)が掲載され、ネットを通じた運動の拡がりを見せています。



80社近いオフィシャルサポーターさまの紹介記事を連載しています。東証プライム市場上場の大企業、全国各地の企業など、企業紹介と共に「ピンクリボン運動を始めた動機」、「社の内外での具体的な活動」一の2つのポイントを取材してきました。

ご担当者の熱意ひしひしと

ピンクリボンに関わる取材で全国各地を訪ねました。大阪のJ.POSH事務局をお訪ね下さり、事務所での取材もありました。また、コロナ禍ではオンラインによる取材もありました。振り返ればそれぞれすべての取材が忘れられないものばかりです。企業トップ自らのこの運動にかける熱い思いに加え、ご担当者の熱意がひしひしと伝わってくる取材がほとんどでした。

●…釧路市内で開催されたアイスホッケーの国際試

合はオフィシャルサポーター・日本製紙(株)さんの企業チーム「日本製紙クレインズ」と韓国チームの戦い。乳がん啓発のピンクリボンイベントとして開催され、募金を頂いたほか、大勢の観戦者のみなさまにピンクリボンをアピールするいい機会を提供して頂きました(2017年冬号)。後日、同社の八代工場(熊本県八代市)を見学する機会も頂きました。そこではJ.POSHのロゴマークである



ピンクリボンがパッケージに印刷されたコピー用紙を製造されていました(2018年春号)。

●…「傾聴ボランティアとして終末期を迎えたがん患者

さまと接し、がんの早期発見や検査などの大切さを感じたことがピンクリボン活動を始めたきっかけ」と話してくれた川越市の最明寺(天台宗)の千田明寛副住職(当時)。毎年10月のピンクリボン月間には本堂をピンクにライトアップ、本堂内でのヨガ体験、チャリティーコンサートなど多彩なイベントを開催されています。「最初のライトアップ時、『お寺がピンクとはけしからん』と檀家さんや近隣住民の“反対”の声もあった」といいますが、現在では運動の主旨が広く理解され、温かい支援の輪が広がっているそうです。イベント収益の一部をご寄付して頂くなど、お寺のイメージを変えた活動を通じ、ご協力を続けて頂いています(2019年夏号)。



●…4年制の医療大学・

「鈴鹿医療科学大学」(三重県鈴鹿市)。女子学生81人が『ピンクリボン活動部』を立ち上げ、“部活”として校内外での募金活動、地域の救急・健康フェア参画など活発な乳がん啓発を展開しておられます。保健衛生学部、医用工学部、看護学部、薬学部の4学部があり、放射線技術科学科ではマンモグラフィー技術修得が必須。このことか



らピンクリボン活動部の部活に参加する学生が多いといえます(2019年秋号)。

●…岐阜県大垣市郊外の山中に作られたトライアルコースに、全国のバイク好きが集まって年4回開かれる「グリーントライアル大会」。主催しているのは川添明

🌸 おかげさまで「第50号」 🌸

さん。バイク、スポーツカーなどの運転が趣味の川添さんは地元で「上石津グリーンライダーズクラブ」を結成。1987年7月に第1回トライアル大会を開いて以降、継続して開催を続けていらっしゃいます。この大会では毎回『ピンクリボン募金を』募り、ご寄付をお寄せ頂いています。募金のきっかけは、全国から集まる大会参加者の奥さんたちの何気ない会話。「会話の中でお二人が乳がんと闘い通院していることが分かり、ピン



クリボン活動を支援しなくてはと思い立った」(川添さん)という動機でスタートした活動です(2020年春号)。

●…兵庫県立豊岡総合高校インターアクトクラブ(顧問=岩本敏浩教諭、部員19人)は、豊岡市の地場産業であるカバン製造業者から無償で譲り受けた廃材・ポリプロピレン(PP)テープを利用し、愛らしいピンクのボトルリボンを多数作成。572人の全校生徒に配ったのを始め、地元商店街や郵便局などで展示・配布し、乳がん啓発活動を続けていらっしゃいます(2020年秋号)。岩本教諭は現在、県立和田山高校に勤務。先生や生徒たちへのピンクリボン

活動の一環として学校に講師を招いて講演会を開くなど、活動を続けていらっしゃいます。



●…岡山市の「岡山中央病院」は、J.POSHが推進しているJMS(10月第3日曜日に休日乳がん検診を実施)に賛同し、2010年から継続実施中。「女性の健康を総合的に支援する女性専門外来」を古くから立ち上げ、女性医師による運営を行っている同病院はJMSを“女性のための日曜検診日”として乳がん検診に加え、子宮がん検診、骨密度検査、看護師・栄養士無料相談など検診項目を拡大して実施。金重恵美子院長



は「利用者アンケートでの好意的なお言葉が励みとなってスタッフが自発的に取り組んでくれています」と(2023年夏号)。

●…「自分の身近な人たちが乳がんと闘っているのを目にし、人の生命に関わる仕事をしている当社

が貢献できることはないか」とJ.POSHのオフィシャルサポーターに登録された「北里コーポレーション」(静岡県富士市)。産婦人科不妊治療に関係した医療機器の開発・製造・販売を手掛ける同社を立ち上げた井上太綏社長は、東海道新幹線新富士駅前



の本社ビルの壁に大きなピンクリボンマークを掲げて人々にアピールするほどに力を入れていらっしゃいます(2023年秋号)。

活動は娘が遺してくれた私の生き甲斐

●…個人サポーターとして長年ピンクリボン活動にご尽力頂いている東広島市在住の主婦・政光正枝(まamiつ・まさえ=写真右)さんを訪ね、感謝状を贈ったのは2016年7月26日の事でした(写真左は平田以津子理事)。政光さんは09年夏、愛娘の次女・香さんを乳がんで亡くされました。8年間の闘病の末、39歳の若さで他界された香さん。闘病中、寄り添う母親の正枝さんに患者としての立場からピンクリボン活動の大切さを訴えていらっしゃったということです。愛娘が天国へ旅立ち、悲しみと思い出だけで暮らす日々の中、正枝さんは「乳がんで悲しむ人を一人でも少なく」と訴えるJ.POSHの活動理念に共感され、娘の遺言と受け止めていたピンクリボンの活動を個人サポーターとして始められました。政光さんの活動はポスター貼り、街頭でのリーフレットやティッシュ配布、啓発グッズの販売、さらには知人の営む喫茶店や商店などに募金箱を設置するなど多岐に渡り、その浄財はJ.POSHの貴重な活動資金として使わせて頂いています。「ピンクリボン活動は娘が遺してくれた私の生き甲斐。元気で動けるうちは頑張るつもりです」と。奇しくもお訪ねした日の翌7月27日は香さんのご命日でした(2016年秋号)。政光さんからはその後も継続してご寄付を頂き、時々お手紙も頂くなどお元気で頑張っていらっしゃいます。



取材にご協力して頂いた皆様に心からお礼申し上げます。そして、これからも引き続きご愛読よろしくお願い申し上げます。2024年冬 (I.T)

スポーツ関係者からのご寄付、続々

近年、スポーツ関係の方々からのご寄付を多く頂くようになりました。マラソンのチャリティ枠や、ゴルフではチャリティ杯として参加者が寄付して下さるもの、また、野球、バレーボール、バスケットボール、バドミントン等々の試合会場やジム、スタジオなどでのピンクリボン啓発活動に伴う募金活動で集まった寄付金をお寄せ頂いています。オークションで寄付を募って下さったというケースもありました。各種スポーツのシーンで、多くの方々がピンクリボン活動に心をお寄せ頂き、大変ありがたい事と感謝しております。

関西学生アメリカンフットボール連盟がピンクリボン活動を展開

こうした中、アメリカンフットボール界で関西の学生連盟が新たにJ.POSHのオフィシャルパートナーとしてピンクリボン活動を展開して頂けることになりました。以前から継続的にご寄付を頂いている社会人アメリカンフットボールチームや大学のチームがありますが、今年(24年)から本格的にピンクリボン運動の取り組みを始められたのは一般社団法人関西学生アメリカンフットボール連盟(川口隆弘理事長、42校参加、事務局=神戸市)です。同連盟は24年10月、J.POSHのオフィシャルパートナーに登録。ピンクリボン月間である10月に行われた試合で募った募金や、選手たち自らの寄付金などの浄財をお寄せ頂きました。

オフィシャルパートナーに登録され、10月



会場に置かれた募金箱

に初めてピンクリボン活動を展開された同連盟は10月13日(日)を『ピンクリボンDAY』とし、神戸市の王子スタジアムでの試合で会場に募金箱を設置したほ

か、会場受付で入場者にJ.POSHの乳がん啓発ティッシュを配布するなど、ピンクリボン運動をアピールし気運を盛り上げました。同日の関西学院大学と京都大学の試合の“コイントス”はJ.POSHの平田以津子理事・事務局長が行わせて頂きました。場内のアナウンスで、ピンクリボン運動についての説明も流されました。試合では選手達が手首やシューズにピンクのテープを巻いたり、腰のタオルにピンクのアイテムを着けてプレー。アメフト試合においてはチームカラーだけの使用と決められているのですが、ピンクリボンDAYには特別の許可を得てピンク色を身に着けたということです。



裏か表か、宙に浮くコイン



選手はじめ関係者はピンクのアイテムを身に着けて：

アメリカンフットボールの発祥はアメリカ。米国におけるアメフト(NFL)人気はトップとされ、プロバスケットボール(NBA)や大リーグ野球(MLB)人気を上回ると言われています。NFLはこちらもアメリカで始まったピンクリボン運動を協賛。その歴史は古く、現在も各チー

ムが啓発活動を続けています。日本のアメフト界も米国の影響を受け、大学、社会人共にピンクリボン活動の広がりを見せています。オフィシャルパートナーに登録された関西学生連盟の谷山肇・常任理事運営部長は「学生たちに学びの機会とチャリティ精神を、との思いで運動への参加を決めました」と。

これまでにご寄付を頂いている大学関係チームは立命館大学、慶應義塾体育会、西南学院大学、福岡大学、桃山学院大学、立教大学体育会(ご寄付頂いた順)、そして関東学生アメフト連盟。社会人関係では日本社会人アメフト連盟の企業チームなどから頂いています。

特に、富士通アメフト部さんからは2015年から毎年ご寄付を頂いておりますが、年々寄付額が増えており、アメフトファンや選手の皆様の間ではピンクリボン活動への関心が高くなっているという事でしょうか。嬉しく存じます。

各種募金活動に心をお寄せくださり、ご協力くださった皆様に厚く感謝申し上げます。

12月15日には甲子園球場で「全日本大学アメリカンフットボール選手権決勝『三菱電機杯第79回毎日甲子園ボール』」(主催=日本学生アメフト協会・毎日新聞社、主管=関西学生アメフト連盟)が開催され、立命館大学が9年ぶりに日本一の栄冠を勝ち取りました。

ピンクリボン月間 各地の活動



10月にライトアップされている各地の建造物を有志の方達とYoutubeで共有。イベント当日の10月6日には「乳がん患者会ここん」さんは地元の足利織姫神社から参加されました。



沖縄県石垣島の患者会「ナネーズ」さんの妹?組織として50歳以下の人たちの「ナネーズslow」さんが誕生。石垣市健康福祉祭りの看護協会ブースで、会の存在を知って頂く為にも手作りのピンクリボンアイテムを配布して乳がんの啓発活動をされました。



京都乳がんピアサポートサロンさん発行のチラシと、開催当日の風景。座ったままでも、出来る体操、運動はあるものですね。少しでも体を動かす事の大切さの学びがありました。



愛知県の私立聖霊高等学校の文化祭で、2年生のクラス展示として、自分たちが学習した乳がんやピンクリボンの事を発表し、募金活動もしてくださいました。多くの生徒、保護者の方達が熱心に読んで下さり、関心を持って頂けたようです。

事務局からのお知らせ

家族で湯ったりキャンペーン'24

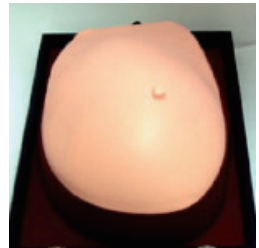
本年度も沢山のご応募をいただきました。厳正なる抽選の結果、各施設様の当選者が決まりました。当該施設様には当選者様についてはご連絡済ですので、招待状を受け取られた方は、期間中に直接、施設に連絡し、ご予約なさってください。良いご旅行になる事をお祈りしています。招待状が届かなかった方は残念でしたが、倍率は17倍ほどとなかなかの確率となっているため、当選は結構難しいですが、次の機会にも、またチャレンジなさってみてください。お待ちしております。



啓発パネル2種



望の場合はご確認くださいませ。



触診モデル

啓発パネル貸出終了のお知らせ

乳がんについての啓発活動にお役立ていただきとうと、長らく「啓発パネルと触診モデル」をセットでお貸出しておりましたが、年に何度も、日本中のあちらこちらに行ったり戻ったりしておりますと傷みもでてきております事から、パネルにつきましては、25年4月からは、HPより画像をダウンロードしてご活用いただく方向に変更させて頂く事と致しました。触診モデルにつきましては、引き続き、貸出を継続致します。企業内で従業員さんの健康診断の際や、ピンクリボンのイベントや健康祭り等、種々の場面で多くの方に触診体験をしていただけて、良い機会だったとお声も届いています。貸出の詳細については、追ってHPなどでお知らせいたしますので、ご希

ピンクリボンNEWSあとがき

J.POSHをお選び頂き感謝、感謝です

『ピンクリボンNEWS』はおかげさまで第50号を迎えました(特集記事)。この間、多くのオフィシャルサポーターさまやパートナーさまなどに取材の機会を頂いたわけですが、その際、必ず質問させて頂いたのは「なぜJ.POSHを選んてくださったのですか?」一。その代表的なお答えとして『ピンクリボン団体の事をネットなどで調べるとJ.POSHさんは大きいイベント等にはお金をかけず、奨学金やシッターサポート、家族で湯ったりキャンペーン



など、乳がんになられた方に寄り添って地道にコツコツと実行しておられますよね。J.M.Sの推進も検診率を上げるのに重要な役割を果たすものだとも思いました。内閣府のホームページで閲覧しても堅実さを感じました。社内会議ではJ.POSHさんに協力することで皆の意見が一致しました』と。嬉しいではありませんか。最高の誉め言葉を頂きました。さらに地道な活動を展開していかなくてはと気を引き締めている次第です。(I.T)